

神谷

しゅんいち

900年の歴史を受け継ぎ
市民・地域とともに築く・千葉市の未来



都市機能の中に
緑と水辺が感じられ
セーフティネットが働き、
豊かなライフスタイルが
実現する千葉市へ

10の未来ビジョン

15の約束





神谷

しゅんいち



神谷しゅんいち（51歳）プロフィール

- 1973年 愛知県生まれ
- 1996年 東京大学経済学部卒業 旧自治省入省
- 2001年 在ヨルダン日本国大使館
- 2004年 佐賀県農林水産商工本部新産業課長
- 2008年 総務省自治財政局財務調査課課長補佐
- 2010年 佐賀市副市長
- 2012年 総務省自治行政局地域政策課理事官
- 2013年 千葉市経済部長、経済農政局長、副市長
- 2018年 総務省消防庁国民保護・防災部広域応援室長
- 2019年 総務省自治行政局住民制度課外国人住民基本台帳室長
- 2020年 総務省退職
- 2021年 千葉市長初当選

900年の歴史を受け継ぎ 市民・地域とともに築く・千葉市の未来

千葉市で、地域で、霞が関で、世界で危機管理・防災、地域福祉、産業政策を学んだ確かな経験をベースに、千葉市政にこれまでの経験の全てを注いだこの4年間。危機管理体制を強化し、子育て支援と企業立地、緑と水辺を感じられるまちづくりなど職住近接が可能な豊かな千葉市づくりにひたむきに取り組みました。

「神谷しゅんいちの5つのビジョンと11の約束」を掲げ、2021年3月に初当選させていただいてから早4年。市長就任直後から新型コロナ対策に奔走する日々でしたが、生活を守り、経済を動かしていく取組を進め、基本計画が目指す都市の姿である「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市」の実現に向けて全力を尽くした4年間を振り返り、市民の皆様との約束が果たされているか実績を確認していきます。

実績 2021- 2024

4年前のマニフェストで掲げた政策を62の取組項目に整理して、基本計画や第1次実施計画などの行政計画に反映して施策を展開してきました。その結果、令和6年度末までの進捗見込みとして、「達成」が56項目で90.3%、一部実施を含む「未達成」が6項目で9.7%の進捗率となり、概ね順調に進捗が出来たと考えています。ご意見をお寄せいただいた市民の皆様、アイデアを出し施策の企画立案、実施に取り組んでくれた市職員、事業者の皆様にご感謝申し上げます。

未達成の見込みの取組については、この4年間の資材単価など物価高騰の影響を受け、検討を延期せざるを得なくなったものが中心ですが、「介護保険施設等の計画整備」については、認知症対応型共同生活介護を併設した小規模多機能型居宅介護等について応募がない状況で整備が進まず、公募条件を見直して再公募を実施していきます。

「動物愛護の推進」については、「動物愛護管理行政の在り方」を策定するにあたって、ボランティアや関係

マニフェスト 90.3% 達成[※]

※令和6年度末までの進捗見込み

団体等との意見交換会や有識者懇談会での議論を時間をかけて丁寧に行いました。「在り方」を踏まえて施設整備に向けた検討を進めます。

「ZOZO マリンスタジアムの今後の検討」については、基礎調査の結果、多額の経費を要することが判明し、千葉ロッテマリーンズとともに民間の資金ノウハウの活用など事業スキームの検討に時間を要しており、令和7年度中の基本構想の策定、令和8年度中の基本計画の策定を目指し、検討を継続していきます。

「県水道との一体化、広域化の検討」については、県市間連携会議において当面実現可能な広域連携を進めることとし、県施設となる長柄浄水場から第三者委託により市水道に送水することで、千葉市が保有する未利用水源の利用が可能となる広域連携について合意しました。経営統合については検討を継続します。

「パラスポーツの推進」については、ポートアリーナに関して、アルティエーリ千葉のBプレミア加入のための一部改修を優先して行い、大規模改修については令和7年度に検討を行います。

「新市民会館の整備、加曽利貝塚の整備・活用の推進」については、新市民会館及び新加曽利貝塚博物館ともに、資材・人件費等の上昇により調達コストが増加していることから、改めて整備計画及びスケジュールを検討しています。

なお、千葉市としての市長マニフェストの進捗状況の評価はこちらをご覧ください。

市長マニフェストの進捗状況

<https://www.city.chiba.jp/sogoseisaku/sogoseisaku/kikaku/manifesto2021-2024.html>



VISION 1

徹底した危機管理と災害に強い都市づくり

約束 1 新型コロナウイルス感染症から市民の命と健康を守り、 経済社会活動との両立を図ります。

- 希望する市民に無料で早期にワクチン接種を行える体制を整備します。65歳以上の方などには身近な接種場所を確保します。
- 医療上必要な方がPCR検査を受けられる場所を増加するとともに、感染リスクが高く予防効果がある職場の方にPCR検査費を補助します。
- 県と連携して病状に応じた必要な病床を確保します。
- 感染症対策に対応できる市役所の組織体制を強化します。感染症対策に対応できる組織体制を強化します。

実績

- 市民生活の実態に合わせて、最大で個別接種422か所、集団接種7か所の接種会場を設置。
- 保健所、環境保健研究所における検査体制を強化したほか、高齢・障害者施設や接待を伴う飲食店等の関係者のPCR検査及び抗原検査を実施。
- 両市立病院での専用病床の確保。
- 千葉大学医学部付属病院と連携した妊婦病床の確保
- 軽症者等の宿泊療養施設をバーディーホテル千葉(120室)、グランパークホテルパネックス千葉(67室)に設置したほか、自宅療養者健康観察センターを設置し、限られる医療資源の中で、リスクに応じたきめの細かい療養環境を整備。
- 専門職種の計画的な採用やOB職員等の人材バンクの構築を行い、新型コロナウイルス感染症対策室の設置及び保健師等の継続的な増員を実現。
- 他部署からの応援や業務委託を含めた体制立ち上げのマニュアル化、動員予定者に対する事前研修の実施により、迅速な業務実施を実現。

約束 2 自然災害に強い都市づくりを進め、 市民の安全と安心を確保します。

- 市長直轄の危機管理・防災組織として局長級の危機管理監を設置し、必要な職員を配置して災害に一層迅速に対応します。
- 消防防災ヘリコプター「おおとり」の更新を進めます。千葉県との共同運航方式について検討し、航空消防力の強化と運航経費の適正負担を実現します。
- 消防団の加入促進、資機材等の整備により、地域の防災力を高めます。
- 土砂災害の予防などの対策を拡充します。

- 感染症対策を十分に行い、様々なニーズに対応できる避難所体制を構築します。

実績

- 市長就任直後に組織改正を行い、市長直轄の危機管理監と危機管理部を創設。緊急時には市長と直接連絡し、庁内関係部署に迅速に指示を行う体制を構築。
- 県市間連携により、千葉県全体をカバーする千葉市消防局の消防防災ヘリコプターの維持管理費年間7000万円の県負担を実現し、365日運航体制に向け人員を強化し、全県で訓練、情報収集等を行える消防航空体制を強化。
- 消防防災ヘリ「おとり2号」の新機種への更新(令和7年3月納入)を行い、搭乗員の訓練を行って令和7年11月の運行開始を予定。
- 消防団に機能別団員制度を導入。千葉大学医学部学生による機能別団員チームを設立。消防団員加入促進のPRを郵便局等とも連携して実施。防火衣、防火帽、消防団車両の更新を計画的に実施。
- 地権者が合意した急傾斜地崩壊防止工事を実施するほか、土砂災害ハザードマップを作成配付し、出水期には重点的な啓発を実施。
- 内閣府の指定により救助実施市に移行。大規模災害時には千葉市が災害救助法の適用を判断することが可能となり、県と役割分担を行って、被災者の救助や応急仮設住宅の供与など救助や復旧を市自ら実施できる体制を整備。
- 分散避難を推進し、自治会館など地域避難施設や車中泊避難場所を確保。
- 災害時のトイレ対策として、避難所となる市立の小中高等学校及び特別支援学校にマンホールトイレの整備を完了。



市災害対策本部



防災訓練

VISION 2

誰もが安心でき、 今日より明日がきっとよくなると思えるまちづくり

約束 3

安心して子育てできる産前産後からの切れ目のない支援とICTを活用して
個々の児童生徒に寄り添う教育を実践します。

- 妊娠・出産・育児の切れ目のない支援として、現行の母子保健包括支援センターを発展させ、相談から申請まで庁内横断的に行える体制を整えます。
- 保育園・こども園の待機児童ゼロを引続き実現し、放課後子どもルームの環境改善を行った上で待機児童ゼロを目指します。そのために民間事業者との連携を強め、放課後の子どもの預け先の選択肢を充実します。
- 保育の質を公私立共に一層向上するため、保育士の処遇改善に加え、手始めに民間保育園のおむつ回収処理経費に助成し、保護者の負担軽減をあわせて図ります。
- 就学前の小学校と幼稚園の連携を高め、放課後対策について幼稚園との連携を強化します。
- 子育て世帯の負担を軽減するため、多子世帯の第3子以降の給食を無償化します。また給食の場を活かして食育、有機栽培の良さを伝える取組を行います。
- 児童相談所を2箇所体制とし、専門知識をもつ職員を配置して、きめの細かい対応を可能とするなど児童虐待対策を強化します。
- 一人1台パソコンを導入しICTを活用した個々の能力を最大限伸ばす授業、一人一人の理解度に応じた授業を実現します。
- 小中学校の特別教室へのエアコン設置を進めるほか、洋式トイレへの改修、床のドライ化を4年間で行うことを目指します。
- フリースクールと学校の連携を強化し、フリースクールの事業内容を保護者にわかりやすく情報提供するとともに、フリースクールの運営を支援し、保護者負担の軽減を図ります。
- 公立夜間中学を設置し、民間で行われている取組と連携して、学び直しの気持ちを応援します。

実績

- 子育てと仕事の両立を実現するため、保育所・保育園の5年連続待機児童ゼロを達成し、令和6年度に初めて子どもルームの待機児童ゼロを達成。
- 小中学校給食の第3子以降無償化を市長就任1年目の令和3年度から実施。市内の有機栽培の食材を用いた給食を提供し、有機栽培の良さを伝えるモデル事業を実施。
- 私立保育園向けの補助金を創設し、おむつの自園処理をほぼすべての保育園で実施。
- アプローチカリキュラム作成の普及など、幼稚園、保育園、こども園と小学校間の交流事業、教職員同士の連携活動を実施。

- 保護者の朝の忙しい時間の負担を軽減するため、公立保育所の給食の主食の提供を順次開始し、令和6年度までに27か所で実施。
- 保護者の働き方の現状に合わせるため、土曜日子どもルーム、アフタースクールの開設時間を午後4時から午後7時まで延長するほか、子どもルームの夏休みの受け入れ枠を創設し拡充。
- 小中学校のトイレの洋式化を4年間で整備を前倒して実施し、全校でトイレの洋式化・床のドライ化を完了。
- 市内の保育園で保育士が長く働き続けられるように、幼児教育・保育のバージョンアップ宣言にもとづき、「ちばし幼児教育・保育人材支援センター」を開設し、保育士のキャリアアップを応援し、相談窓口を開設。
- こどもの医療費助成について、薬局調剤の窓口負担を無料に戻すほか、医療費助成の対象を高校3年生まで拡大し、県内トップレベルの水準に引き上げ。
- 小学校専科指導のための非常勤講師の配置により授業の質のさらなる向上と担任教員が児童と向き合う時間を確保。
- 不登校対策パッケージを策定し、小学生向けの教育支援センター「ライトポート」を全6区に開設したほか、スクールカウンセラー、ステップルームティーチャー等を増員し、相談しやすい体制づくりを推進。
- フリースクールの運営を支援する補助制度を創設するほか、それぞれの特色を保護者に知っていただける情報提供を実施。
- 公立夜間中学「真砂中学校かがやき分校」を開設し、第1期の卒業生6名は全員高校進学を実現。
- 専門職を計画的に配置し、現施設内での東西2か所の児童相談所の運営を開始。新・東部児童相談所の整備にあたり、養護教育センター、発達障害者支援センター、こども発達相談室を集積統合する基本計画を策定し、保護者が安心して子育てを行える取組を推進。
- こどもの権利を保障し、権利侵害には救済委員が調査、勧告する仕組みを設ける「こども・若者基本条例」案を市議会に提出予定。



小学校での給食会食会



子育て世代との意見交換会

約束 4

高齢者が生涯安心して暮らし、健康寿命を延ばせる社会を、障がいの種別、程度にかかわらず安心して暮らせる社会を創ります。

- 特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所などの必要な高齢者福祉施設を計画的に整備します。
- 介護ロボット・ICTの導入による従事者の負担軽減などを通じて、介護人材の確保を図ります。
- ケアラー(介護者)支援を強化します。
- 新たなモビリティ等を活用し、地域特性に応じた高齢者の身近な移動手段を確保します。
- これまでの経験を社会に活かそうとする市民を支援する生涯現役応援センターを真に役に立つ情報拠点にします。
- 海浜病院に変わる新病院を地域と連携し、少子化と高齢化に対応できる病院とするとともに、新病院への交通アクセスを整備します。
- がん検診、特定健診の受診率向上と働きながらがん治療ができる支援を充実します。
- 発達障害を持つ方を成長に合わせて一貫して支援する体制を構築します。
- 障がい者の高齢化、親なき後を見据え、障がい者の生活を地域全体で支える体制を創ります。
- 障がい者ワークステーションを増設し、障がい者雇用を政令市トップレベルにします。

実績

- 特別養護老人ホームを計画的に整備し、介護ロボット・ICTの導入補助を実施。
- あんしんケアセンターでの総合相談を実施。
- 広く市民にケアラーの実態や支援機関等の周知のために市政だよりの特集記事を掲載するほか、ヤングケアラーに関する認知度向上と相談先を紹介するリーフレットを作成し市立学校の小5、中1、高1生に配布。

ヤングケアラーのいる世帯に、ヘルパーを派遣する制度を創設。

- 福祉有償運送への助成事業を立ち上げ、運営経費を助成したほか、高齢者の階段昇降を支援するサービスの円滑な運営のため昇降機の取得経費、運用経費に対する助成制度を創設。
- 生涯現役応援センターの出張相談を強化。
- 海浜病院を美浜区若葉地区に新築移転するため工事に着工。開院時には現在の強みである小児周産期医療を継続し、高齢者に必要な整形外科や肺がん治療が行えるよう呼吸器外科内科を常設するなど胎児から高齢者まで切れ目のない医療を提供できる診療科の整備に向けた準備を実施。
- 集団検診時のこどもの見守り回数の増加やナッジを活用した効果的な受診再勧奨を行うなどがん検診の啓発を実施。がん治療と仕事の両立支援としてウィッグ、エピテーゼ、胸部補整具の購入費用を助成するアピアランスケア支援事業を創設。
- こども発達相談室を開設し、就学前のこどもを対象に、その保護者の発達障害への理解を促進し、こどもの障害の早期発見、早期支援につなげる体制を整備。
- チャレンジオフィスちばしのスタッフを増員したほか、重度障害者等の雇用や就労継続を支援するため、通勤や職場等において必要となる支援に要する経費を助成する制度を創設。
- 福祉まるごとサポートセンターを開設し、複雑な状況にある市民からの相談を受けとめ、市が相談者の状況を整理し、複数の相談支援機関が連携して支援する体制を整備。



こども発達相談室

約束 5

次世代に持続可能な社会をつないでいくとともに、
相手を尊重し相互に分かり合える共生社会を創ります。

- 航空機の騒音対策について国等と粘り強く交渉を行います。
- ひとと動物の共生する社会を目指す動物愛護センターについて、ボランティアとの連携や市職員の業務内容を新しく構築した上で再整備します。
- 女性登用の加速、男性の育児休暇、家事時間の増加を図ります。
- 男女共同参画、LGBT、障がい者、外国人などへの「配慮」が、社会として当たり前になる共生社会を目指します。
- 2050年の二酸化炭素実質ゼロを目指すため、カーボンニュートラル等の取組を進めます。

実績

- 市内の航空機騒音の状況を把握し、国への要望活動を実施。
- 動物保護指導センターの再整備に関し、ボランティアの方々との意見交換や有識者懇談会の調査結果をもとに整備基本計画を策定。猫の馴化部屋など動物の保護環境を改善。イオンペット株式会社と連携協定を締結し、犬猫の譲渡機会を拡大し、殺処分ゼロを継続。
- 女性活躍推進アドバイザーを市内企業に派遣するほか、男性の育児休業取得促進奨励金を市内企業に支給。
- ファミリーシップ制度を導入した上で、パートナーシップ宣誓制度の都市間連携協定を締結。急増する外国人市民との共生のため、有償のコミュニティ通訳・翻訳サポーター制度を創設し、地域の日本語教室に対して運営助成する制度を創設。
- 地球温暖化対策実行計画を策定し、市域で2030年の温室効果ガス排出量を2013年度比で約36%削減、市役所における排出量を50%削減の達成目標を設定。市職員を対象にゼロカーボンアクションの実施、市内事業者を対象に脱炭素アドバイザーの派遣、脱炭素推進パートナー支援制度を創設。脱炭素先行地域に千葉県内で初めて環境省から指定。
- 「千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023」が国土交通省グリーンインフラ大賞「特別優秀賞」を受賞。
- 資金使途を全額「水の循環」に関する事業とするブルーボンドを発行したことが評価され、サステナブルファイナンス大賞・地域金融賞を受賞。
- 官民連携による都市公園の魅力向上を進め、令和6年4月に千葉公園に「芝庭」をオープン。Park-PFI制度を活用してカフェやレストランを提供する拠点施設を設置し、新たな賑わいや交流を創出。
- 身近な公園のトイレの快適化に向けて計画を策定。便器の洋式化、内外装の改修と建て替え、清掃回数増加を推進。

VISION 3

雇用を生み出す自立した経済圏の確立と都市の基盤整備

約束 6

経済の好循環を創り出し、市内企業の成長と安定的な雇用を生み出します。

- コロナ禍で困難な状況にある市内事業者を支援します。
- 民間投資を引き出す経済産業施策、企業立地施策、また規制緩和を引き続き推進します。
- 企業立地にあたっては市長のトップセールスを積極的に行います。
- 市内企業活性化に向けたトライアル発注を拡充するとともに、起業開業や業務効率化をワンストップ・で支援する体制を立ち上げます。
- ポリテクセンター、地元企業と連携し、技術者の就労を支援します。

- 小中学校の段階からのキャリア教育を充実し、中学生の進路選択を応援します。
- アフターコロナ時代のMICEのあり方に合わせた幕張メッセの活用方策を検討します。

実績

○ 経済対策的的確な実施

新型コロナウイルス感染症及び原油価格・物価高騰による市内経済の維持・回復のため、国の臨時交付金等を活用し、市内中小企業への的確な支援を実施。

○ 市内事業者支援による雇用維持・創出とアントレプレナーシップ教育の展開

少子高齢化の進展などによる労働力人口減少への対応として、人への投資による市内企業の生産性向上、経営基盤の確立や人材確保を支援するため、令和6年度に「中小企業のリスキング促進支援」及び「運輸業・建設業の資格取得支援」を新たに開始。

- 小・中・高校生向けにアントレプレナーシップ(起業家精神)を育む機会を創出し未来を担う産業人材を育成するため、令和3年度に「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム『SEEDLINGS of CHIBA』」を設立し、産官学連携による各種事業を展開。

○ 企業立地の着実な進展

4年間(R6.9月末時点)の企業立地認定件数は133件、令和4年度・令和5年度と過去最高の認定件数を更新。自らトップセールスを行い、メルセデスベンツ日本社や東洋エンジニアリング本社に加え、イオンネクスト(株)の次世代型ネットスーパー拠点や(株)Peace Deliの食品製造工場も立地。この間の税収効果は約12億円、雇用効果は約5,100人を見込む。枯渇している市内の産業用地を民間活力により整備するための、産業用地整備方針を令和4年9月に策定し、第1期事業として(仮称)ネクストコア千葉生実の整備に着手。先行事業であるネクストコア千葉誉田は分譲が完了し、5社の立地が実現。

○ スタートアップ支援

令和4年度のC-CAP支援企業が令和6年7月に上場。地域のロールモデルのひとつとなる企業を輩出。令和5年度より起業家がアイデアや技術を持ち寄って交流する場を作る「イノベーション拠点認定事業」を開始するとともに、創業者研修を拡充するなど、市の支援を受けて創業した人数が令和2年の38人から令和5年には74人と倍増。

○ 国際的な大規模イベントの開催による経済の活性化

コロナ禍からの回復期にいち早く感染防止策をとった大型イベントを開催するなど、市内経済及び市民生活の回復に取り組み、世界最高峰のアクションスポーツの国際競技会「X Games」を3年連続で幕



X Games (ZOZO スタジアム)



ROCK IN JAPAN FESTIVAL

張新都心エリアで開催。

- 市内開催の大型音楽フェス「SUMMER SONIC」に加え、令和3年から「ROCK IN JAPAN FESTIVAL」を誘致し、国内3大フェスのうち2つが千葉市内開催に。

約束 7

**1次産業の生産性を向上し、農商工連携を進めます。
耕作放棄地を再生して新たな担い手を育成します。里山の食と体験を活性化します。**

- 農業の省力化(スマート農業)、農商工連携を支援し、生産者の所得向上を目指します。
- 農政センターを拠点に新たな担い手を育成確保し、耕作放棄地を再生します。
- 農政センターで有機栽培の技術指導を行うとともに、農福連携の実施に必要な関係者の調整を行います。
- 近郊農業の利点を活かした地産地消(千産千消)、地域ブランド化を進めます。
- 災害時には迅速な復旧支援を行います。

実績

○ 農業の担い手確保

生産の基礎から経営的視点の育成までを行う一貫した総合的な研修「ニューファーマー育成研修」を創設する等、新規就農者の着実な確保を目指し、支援体制を強化。また、次世代の農業の担い手を育成するため、農業や農業関連産業に関心を持ってもらえるよう、農業及びその周辺の自然科学に関する講義等を小中学生を対象に実施する「次世代向け農育講座」を実施。

○ 「未来の千葉市農業創造事業」の創設

農業者やJA等からの要望が多く、県補助金の対象外とされていた機械や施設等への導入に対して助成する補助事業「未来の千葉市農業創造事業」を創設。予算規模を4.5倍に拡大し、小型・大型問わず機械等の導入を、新規就農者や参入法人に限らず、小規模農家や農業後継者等幅広い農業者に対して支援を実施。



食のブランド「千」試食販売会

○ 食のブランド「千」の魅力発信と取扱店舗の拡大

食のブランド「千」を立ち上げ、都内でのイベント開催や市長自らプロモーションを行う料理教室など、首都圏での認知向上や販路の拡大に積極的に取り組み、第5回までに51件を認定。そごう千葉店やECサイト・グリーンビーンズ等、常設の店舗で購入できる販路を拡大。

○ 有害鳥獣対策

有害鳥獣の生息範囲の拡大に対応し、地域協議会の設置や集中捕獲、わなの増設や狩猟免許取得経費の助成等を実施。特に、被害が深刻な地域での中型獣の定着防止や、イノシシの市内への被害拡大を最前線で食い止めるために、若葉区や緑区で集中捕獲のモデル事業を実施。

○ 農福連携の推進

市内で農福連携セミナーを開催し、農福連携シンポジウムの開催をバックアップするほか、社会福祉施設や農業生産者向けの現地見学会を開催し、農福連携のマッチングを推進。

約束 8

都市の基盤整備と先端技術を活かした 未来都市の実現をめざします。

- ZOZO マリンスタジアムの将来像を含む幕張新都心まちづくり将来構想を策定します。
- 千葉駅東口再開発事業など都市再開発を推進します。また、商業軸の変化を受けた中央公園周辺の活性化のため中央公園と千葉神社を連結する歴史と情緒ある街並みを創る門前町構想を推進します。
- JR 蘇我駅東口駅前地区、JR 稲毛駅東口地区のまちづくりを支援します。
- 新たな湾岸道路の整備により、市内渋滞の緩和、物流の高度化を目指します。
- 県水道との経営の一体化、広域化を検討し、市水道の経営の安定化を図ります。
- 自動運転、ドローン、医療のIT化などスマートシティの実装を目指します。

実績

- 幕張新都心まちづくり将来構想を策定。ZOZO マリンスタジアムの将来像については、千葉ロッテマリーンズと連携し、基本構想の策定に着手。
- 国道357号の検見川真砂スマートインターチェンジ及び検見川立体の事業採択と詳細設計の実施。
- JR 京葉線の通勤時間帯の快速運転を廃止するダイヤ改正に際して、東京への速達性の維持や幕張新都心の拠点性が維持され市民生活や経済活動の実態に合ったダイヤとすべく、利用者アンケートを実施し、再改正を強くJR 東日本に申し入れを行い、一年を待たずに一部の快速が復元する異例の再改正が実現。
- 新湾岸道路の具体化に向けて、国等に要請活動を行い、ルートやICの位置、工法を具体的に検討する計画段階評価に移行し、市民に対する情報提供や説明会を開始。
- 県市間連携推進会議で市営水道と県営水道の経営の一体化を議論し、県施設となる長柄浄水場から第三者委託での千葉市営水道への送水について基本合意。未活用水源の活用による水源費用の二重負担の解消や老朽化した土気浄水場の廃止が可能となる詳細条件の検討に着手。
- スマートシティ推進ビジョンを策定し、コネクテッドセンターちばに寄せられた民間提案を実現。自動運転モビリティやドローン等のサービス導入に向けた実証実験を実施。高齢者向けスマートフォン講座、相談会を市内全域で実施。



ドローン自動配送ロボ実証実験

VISION 4

地域のつながりを高め、豊かな感性を磨き、 誇りを持てるまちづくり

約束 9

市民活動や文化・芸術・スポーツ活動を支援し、
世界に挑戦する千葉市ゆかりのアーティスト・アスリートを応援します。

- 市民活動、文化・芸術・スポーツ活動を支援、活性化し、世界に挑戦する市ゆかりのアスリート等の育成支援を行います。
- 千葉市がパラスポーツの拠点となる取組を進めます。
- 千葉公園ドーム、体育館を活用した国際スポーツイベントを誘致します。
- eスポーツ、ストリートカルチャーやエクストリームスポーツの誘致や拠点整備に挑戦します。
- 市制100周年を迎えた千葉市のアイデンティティ事業を強化します。
- オオガハスを活かした地域づくりを応援します。
- 新市民会館、加曽利貝塚新博物館を整備します。

実績

- 町内自治会とNPO等とのマッチングや多様な主体との連携を進める地域支援プラットフォームを構築。トップアスリート、次世代アスリートの育成支援制度を創設。
- パラアスリートの学校訪問を実施するほか、ちばしスポーツコンシェルジュを運営。オープンポッチャ大会を開催。
- 千葉シティトライアスロン大会、アジアトライアスロンパラカップの開催支援を実施。また TIPSTAR DOME CHIBAにおいて JICF INTERNATIONAL TRACK CUP、eスポーツの国際大会を開催。
- アート、ファッション、音楽等を融合したスケートボードなどのアクションスポーツの国際的な競技会 X Games Chiba を3年連続して市内で開催。

- 4つの地域資源の商品開発に向けたクラウドファンディングセミナーを開催。郷土博物館の展示リニューアル事業に着手。
- 大賀ハスマつり、YohaS(夜ハス)を開催したほか、大賀ハス開花70周年記念事業を開催し、その際に決定した行動計画に基づき、佐賀県との都市間連携協定を締結し、人材育成や文化伝承事業を行うことに合意。

VISION 5

対話と現場主義。立ち止まらない行財政改革。 デジタル化と真に市民の役立つ寄添う市役所に

約束10 すべての区で、「市長と語ろう会」を実施するほか、
財政健全化に立ち止まらず不断に取り組みます。

- すべての区での「市長と語ろう会」、「ランチミーティング」、「オンライン対話会」を定期的に開催するほか、情報公開を徹底します。
- 中期財政計画を策定し財政健全化に継続的に取り組みます。

実績

- 「市長と語ろう会」のリアル版とオンライン版、市民活動団体向けの語ろう会とティーミーティングを4年間で計141回開催。地域や団体で向き合っておられる地域課題をお聞きし、その解決策を一緒に考えていく直接広聴を実施。
- 中期財政運営方針を策定し、その後の物価高騰等の社会経済情勢等の変化を踏まえ見直しを実施。

約束11 市役所への手続のオンライン・デジタル化を進めながら、
困ったときには寄り添える真に市民の役立つ市役所にします。

- オンライン申請が可能な手続は原則オンライン化し、市民の来庁の手間を軽減します。
- ICT、企業経営、災害対応、政策立案に強い専門性の高い課題解決力のある市職員を育成します。

実績

- 年間手続件数の約8割に相当する手続をオンライン化。
- 市窓口でのキャッシュレス決済を導入。
- 千葉市学習管理システムの運用を開始し、各部局で職員の研修機会を庁内外で確保。

県市間連携

これまで千葉県との間で検討が進まなかった課題について、知事と市長が方向性を共有した上で検討を進め、行政の効率化を図り、県民・市民ともにメリットのある行政運営を行うために、県市連携推進会議を、就任後ただちに設置しました。



市連携推進会議では

「①消防防災ヘリコプターの効率運用」については、これまで県内出動時も千葉市が負担していた維持費を県が年間7000万円を上限に新たに負担。これにより市消防ヘリは、地震や風水害時に県内全域に情報収集活動に出動し、県内の訓練でも積極的に展開しました。現在、「おおとり2号」の更新を進めており、整備後は365日日中の出動待機体制を確立します。

「②県営・市営水道の広域連携」については、九十九里地域・南房総地域の水道用水供給事業者と県営水道の統合により、県企業局の施設となる予定の長柄浄水場から第三者委託により千葉市営水道に送水することについて詳細を協議することに合意。これにより、市営水道は老朽化する土気浄水場を廃止し未活用水利権の活用が可能になって、水源費用の二重負担の解消が可能になります。

その他の分野でも連携が進んでいます

「新型コロナ対策本部会議に保健所設置市が参加」

コロナ禍において、就任後すぐに、保健所設置市が千葉県の対策本部会議に出席することが可能になり、保健所業務に関する情報共有が迅速化。感染症対策の県と保健所設置市の意見交換が進展しました。

「大規模災害時の役割分担を明確化(千葉市が内閣府から「救助実施市に指定）」

千葉市が、内閣府から救助実施市の指定を受け、大規模災害時に、千葉市は自らの権限で被災者の救助や応急仮設住宅の設置等を行えるようになりました。県は千葉市以外の区域での対応に、より注力することが可能となり、千葉市は自ら実施することで、全県での迅速な対応が実現します。

「県有地と市有地の有効活用」

海浜病院の移転先を幕張新都心若葉住宅地区の県有地としたほか、県特別支援学校の設置場所を花見川2中跡地とするなど、県市間連携で効率的で利便性の高い土地活用が実現しています。

また、分野に限らず、関係の深い県市の担当部署間の協議打ち合わせが当たり前のように行えるようになってきており、県民にとっても、市民にとってもメリットのある県市間連携が深まっています。

マ ニ フ エ ス ト

10の未来ビジョン

15の約束

2025 Ver.1

千葉市長 神谷しゅんいち マニフェスト 2025

Ver.1

900年の歴史を受け継ぎ
市民・地域とともに築く・千葉市の未来

都市機能の中に
緑と水辺が感じられ
セーフティネットが働き、
豊かなライフスタイルが
実現する千葉市へ

セーフティネットが働き、将来も職住近接が可能で、文化芸術スポーツ活動が充実し、豊かなライフスタイルがおくれる拠点都市・千葉市を実現するための10の未来ビジョンと15の約束、合わせて122の政策項目の「神谷しゅんいち・マニフェスト2025」が始動します。

今、千葉市で

コロナ禍が収束し、地域に賑わいが戻りつつある中で、これまでの都市政策が実を結び、2024年11月には昨年と比べて約5千人の人口増を実現し、98万5千人の都市に成長しています。しかし、将来の人口減少は避けられず、子育て支援策、経済活性化などでその減少を如何に抑えるのか、人口減少局面でも如何に豊かな市民生活を実現していくのか、激甚化する災害への対応といった課題にも直面しています。

千葉市は、働く場所と学ぶ場所があり、市内で働く人が労働人口の約6割、周辺市から千葉市に通う人も多く、中央区と美浜区では昼夜間人口比が約120%と、東京のベッドタウンというよりも、地域における経済や文教の拠点都市としての性格が強いまちです。昨年千葉市に転入された方へのアンケートでは、仕事の関係で住まいを構えられた方が多く、今後も東京に依存するのではなく雇用と学びの場を創り出していくことが千葉市の持続的発展に必要です。

そのために、市内事業者の支援と企業立地により雇用の創り、農業の担い手を確保して地域社会を維持していくことに注力し、「千葉」を拠点とするための都市基盤として道半ばである東京都内、羽田・成田両空港とのアクセスを改善する広域道路や鉄道のネットワークの充実も、未来世代が活躍する将来の千葉県や国レベルに効果をもたらすプロジェクトとしても、今為すべきことを為し、実現に向けて取り組んでいかななくてはなりません。

そして、健康寿命を伸ばし、地域で長く住み続けられるための高齢者福祉、親亡きあとも地域で安心して生活が送れる障害者福祉、子育てと仕事を両立できるための子育ての環境づくり等を進めます。特に、忙しい子育て世帯が子どもと向き合う時間を生み出す取り組みや、厳しい状況にある若者や子どもたちへの支援などのいざというときのセーフティネットを充実するほか、住む場所の選択に際して評価されている、都市機能の中に

緑と水辺を感じられる自然環境や都市公園の憩いの場を磨き上げていきます。

「子ども若者基本条例」案を市議会に提案します。以前と比べ自己肯定感が低いと言われる最近の子ども若者の中には、社会とのつながりを持つことが難しくなっている方がいます。また、児童虐待や不登校、発達障害の悩みを抱える子どもや保護者が増加しています。子ども若者基本条例に定める、子ども若者の権利を保障し、悩みを持つ子ども若者を、地域社会で支える仕組みをさらに充実する必要があります。

また、「地域のちから」を引き出していくことが今必要です。コロナ5類移行以後、できる限り夏祭りや敬老会などの地域の催しに出席させていただきましたが、コロナ禍で薄れた地域の繋がりが十分に元に戻らず、地域によっては新たな住民との間接点が見いだせないという痛切な声をお聞きました。地域の支え、つながりを再構築し、町内自治会にこれまで担っていただいていたことの棚卸を行いながら、持続可能な地域を創っていかねばなりません。

次の4年間では、令和8年に千葉開府900年の節目の年を迎えます。千葉のまちとしての歴史と成り立ちを振り返りながら、次の10年、100年に向けて、千葉市の将来像とそれを実現するための取組を市民、団体、大学、事業者など千葉市に関わる全ての方と共有していきたい。そのための千葉開府900年記念事業や各区にアートフィールドを設ける千葉国際芸術祭2025の取組を通じて、今一度千葉市の持つ地域の魅力やちからを再認識し、引き出し、広げていきたいと考えています。

職住近接を可能とする都市機能や経済活動を発展させながら、いざという時にはセーフティネットが働き、身近に文化芸術、スポーツに親しめ、市民活動が充実して、豊かなライフスタイルが送れる千葉市の実現に向けてともに進んでいきたいと思います。



「地域の力」を引き出す。

千葉市の未来 地域とともに歩む。



千葉開府900年の節目に

愛着と誇りを育み、「地域のちから」を引き出して未来を切り拓く

千葉開府900年の節目の時期を迎えるにあたり、当時としては高齢で、現代でいう生涯現役を实践した千葉常胤が、変化の大きい時代の中で、平氏一門でありながら源頼朝を助け、鎌倉幕府の成立を支援する局面転換を大胆に行い、千葉一族の繁栄を築いた史実と、900年に亘る千葉のまちの歴史と成り立ちを振り返りながら、

- 不確かな時代に自分の途を切り拓く力を身につけるひとつづくりの取組
- 900年培われてきた「地のちから」を引き出し向上させる取組

を行い、千葉市の未来を地域とともに築いていきます。

1

千葉開府900年記念事業として、記念式典、記念祭りやパレードの開催のほか、郷土博物館のリニューアル、若者・起業家に対する研修プログラム等を実施し、将来に向けたひとつづくりにつなげていきます。

2

千葉国際芸術祭2025「ちから ひらく」を開催し、市民が芸術活動を通じて創造性を発揮し、新たなひとと地域のつながりを広げながら、歴史や自然など地域の価値を再認識することで、まちへの愛着と誇りを育み、ひいては千葉市のまちの魅力を高めます。トリエンナーレとして継続開催を目指し、千葉開府900年のレガシーの一つに位置付けます。

3

学習・研究活動の拠点と観光資源の両面を持つ、特別史跡加曽利貝塚新博物館の整備を進めるほか、各区にオオガハスの観察場所の設置と保存継承に関する人材育成を進め、都市アイデンティティのさらなる確立を目指します。

4

敬老会や夏祭りなどの地域行事の開催が難しくなっている地域がありますが、自治会・町内会の業務の重点化、デジタル技術の活用、区役所の地域づくり担当職員による支援、NPOや大学との連携などを進め、活動への参加のしやすさ向上や負担軽減につなげ、担い手確保を支援します。

VISION

千葉市・未来ビジョン

2025

01 職住近接が可能で、
子育てと仕事が
両立できる・千葉市に

06 市民生活や経済活動に
必要な交通手段が
確保される・千葉市に

02 都市機能の中に
緑と水辺が感じられ、脱炭素社会の
モデルとなる・千葉市に

07 文化芸術・スポーツ活動を
「する」、「みる」、「支える」
機会がある・千葉市に

03 こどもの権利が守られ、
確かな学力が身に付き、
若者に支援が届く・千葉市に

08 行革やDXで市民に時間を返し、
千葉県との連携で、県民も市民も
メリットが感じられる・千葉市に

04 高齢者も障害のある人も、
地域で長く
住み続けられる・千葉市に

09 対話と現場主義を
実践し、
市民の声が届く・千葉市に

05 迅速な初動と
避難所が強じんな
防災都市・千葉市に

10 民間や地域の力を結集して
チャレンジを続け、
時代のトレンドを創る・千葉市に

PROMISE

約束

2025

約束 1

現役世代の子育てと仕事の両立ができる
環境づくりをさらに推進します。

子育てと仕事が両立できる幼児教育・保育の体制強化とそれに必要な人材確保・育成など、妊娠・出産期から切れ目がない子育て支援体制をつくるほか、忙しい子育て世帯の時間を生み出す支援を行います。

- 保育所や子どもルームの待機児童ゼロを継続させます。
- 男女問わず妊娠出産に関する正しい知識の普及を図るプレコンセプションケアを推進するため、女性の健康相談と不妊専門相談センターが連携した支援体制の強化と、将来の妊娠・出産に備えた不妊検査助成事業を実施します。
- 産後ケア事業の利用者負担額を引き下げます。
- おたふくかぜワクチン接種に助成を行います。
- 第2子以降の保育料を年齢や所得制限なしで半額にします。
- 公立保育所でのおもむつのサブスクリプション(定額利用)を導入し保護者、保育士双方の負担軽減を図ります。
- 公立保育所の給食の主食提供をすべての保育所で実施します。



保育士養成課程の学生との意見交換会

- 多様化する保育ニーズに対応するため、コロナ対策期間中に受入可能数が減少した病児病後児保育の受入れ枠を拡大し、公立保育所での休日保育を拡充します。
- きょうだい入所を可能とする入園調整を優先的にを行います。
- 保育士の確保のため、千葉市手当を月額3万円から4万円に引き上げます。
- 保育士就学資金貸付の月額を引き上げ、5年間市内勤務後は返済を免除することで、学費相当額を支援します。

約束 2

確かな基礎学力と体力をつける 学習環境をつくります。

子どもたちを取り巻く環境は複雑になり、将来が予測困難な不確かな時代とされていますが、どんな環境であっても活かせる確かな基礎学力と体力を身につけるため、個々の理解度に応じた教育を行い、安心して学べる環境の充実を進めます。

- 近年の気候変動で必須であるエアコンの設置を千葉市立学校の体育館で開始します。中学校、特別支援学校、市立高校は令和8年度中に整備を完了し、小学校は令和9年以降順次整備します。体育の授業、夏の部活動、地域行事が気温上昇にかかわらず行えるようにし、災害時の避難所の環境改善にも活かします。
- 予測困難な時代において主体的・創造的に生き、たくましく未来を切り拓いていけるよう、小学校の教科担任制や探究的な学びの推進等により、やり抜く力と自己肯定感も含め児童生徒一人ひとりの確かな学力の向上を目指します。
- 市立学校のインターネット通信環境を改善し、学習に適切なセキュリティレベルとした上で、軽い端末の導入や学習支援ソフトの採用などギガタブの活用を一層進め、個々の理解度に応じた学習など、新しいスタイルの教育を確立します。また、家庭のパソコンを学校のシステムにつなぎ、ギガタブを持ち帰らなくても自宅で学習できる環境をつくります。
- 小中学校の英語教育にAIソフトなどの教材を導入し、会話力の向上を図ります。
- プログラミング教育を充実し、これからの社会で一層必要となる情報活用能力を養います。
- 優秀な教職員の確保のため、新規採用者の奨学金返済を公費で賄う奨学金返還サポートを実施します。
- 官民連携したアントレプレナーシップ教育プログラムを充実します。
- こどもルームの待機児童ゼロを継続するとともに、保護者の就労状況にかかわらず放課後のこどもの安全安心な居場所となるアフタースクールへの移行を計画的に進めます。
- 小学校でのむし歯予防フッ化物洗口を拡大し、歯と口の健康づくりを進めて、児童の健やかな成長を守ります。
- 外国から転入し日本語指導が必要な児童生徒を対象に、一定期間集中的に日常生活のガイダンスや初期の日本語指導を実施する「プレクラス」を設置し、学校現場の負担を軽減し、当事者にとっても周囲の子どもたちにとっても望ましい環境をつくっていきます。

約束 3

行政からの支援が届きにくい若者への支援や、不登校や発達障害などに
特に厳しい状況にある子どもへの支援を強化します。

子ども若者基本条例にもとづいて、子どもの権利を保障し、若者へのサポートを強化するほか、一人ひとりの適性に合った学びの機会を確保するなど不登校児童生徒の支援を強化し進路選択を充実します。子どもの発達に対する相談支援と小児医療の充実のための医療・福祉・教育の連携を強化します。

- 「子ども若者基本条例」にもとづき、子どもの権利を保障し、その侵害については救済委員の勧告により是正が図られる仕組みをつくるほか、「子ども若者支援室」を設置し、若者の就職、資格取得の支援に加え、居場所や相談、活動の支援などをするユースセンターの機能を官民連携で確保して、これまで行政の支援が届きにくかった年代へのサポートを強化します。
- 「第2次不登校児童生徒支援パッケージ」を策定し、不登校傾向のある生徒の学習機会を確保して進路選択拡充に向けた環境を充実します。
 - 「学びの多様化学校」の開校準備を始め、不登校傾向のある生徒の学ぶ機会を一人ひとりの適性に合った形で保障します。
 - スクールカウンセラー、ステップルームティーチャー、家庭訪問カウンセラーの配置を拡充し、保護者にとっても相談しやすい体制づくりを進めます。
- 新・東部児童相談所の中央区末広への新規設置準備を進めるとともに、養護教育センター、発達障害者支援センター、子ども発達相談室を移転集積して、ライフステージに合わせた切れ目のない支援や児童虐待に対応する体制を構築して、保護者が安心して子育てができる、子どもが安心してすごせる拠点づくりを進めます。
- 現在の小児・周産期医療に優位性をもつ環境を維持しながら、千葉大学医学部・同附属病院、千葉市医師会と、市立海浜病院と連携して、小児在宅、救急、成人への移行期医療、心と発達に関する連携など、市内の医療、福祉、教育の連携体制を強化します。



子ども若者基本条例シンポジウム



放課後子ども教室での体験プログラム

約束 4

高齢者が長く安心して地域で生活できる 環境づくりを進めます。

健康寿命を延ばし、高齢者が安心して地域で長く生活できるための健康づくり、介護予防と医療体制を整備するほか、地域の支えあいの仕組みを再構築します。

- 带状疱疹ワクチン接種への助成を行います。
- 既存の制度では対応が困難な複雑化・複合化した課題を抱える方への支援のため、地域の集いなどへの参加につなげる支援事業の実施など、「福祉まるごとサポートセンター」の機能を拡充します。
- 新・千葉市立病院（現・海浜病院）を令和8年度に開院し、小児周産期医療の強みを活かしながら、整形外科と救急科を強化するほか、高齢化に伴って増加する肺がん等のがん治療に対して症状やライフスタイルに合わせて治療を選択することができる集学的治療を可能にするなど高齢化社会に求められる地域医療を提供します。
- 在宅高齢者・障害者のごみ出し支援の仕組みづくりに取り組みます。
- スマートフォンの基本操作や便利なアプリの使い方を身につけられる高齢者向けスマートフォン講座等の開催を充実し、生活に必要な買い物や病院の予約などにお使いいただけるようにします。
- フレイル改善のため、身体機能、生活機能の回復に向けたアウトリーチ活動を強化します。
- 認知症の人が、おひとりでもたご家族等とこれまでどおり外出できる等、地域で安心して生活できるよう、「認知症損害賠償責任保険」に千葉市として加入します。
- 全身の健康と密接に関連する歯科口腔保健を推進するため、口腔機能健診の受診勧奨を行ってオーラルフレイルの早期発見が可能な環境を整えます。
- 現在待機日数が長い斎場について、新設も含めた検討を進めるほか、ライフスタイルや価値観に合わせた樹木葬墓地、合葬墓地等を市営霊園に計画的に整備します。



新・千葉市立病院(完成予想図)

約束 5

相手を尊重し相互に分かり合える共生社会を創り、
障害のある人もない人も地域で自分らしく暮らせる千葉市を目指します。

共生社会の実現に向けての「配慮」が「当たり前」になることを目指すほか、障害の有無にかかわらず、ともに地域で長く暮らせる環境をつくるため、情報伝達を支援する取組、生活基盤を地域に整える取組、都市での生活を楽しめる環境とそれを支える仕組みづくりを行います。

- フェアトレードタウンの認定取得を目指します。世界の価値あるものを市民や事業者が購入して支援する取り組みを推進する(インターナショナル・フェアトレード)ほか、障害者が製作した製品を市が購入する優先調達や市内事業者・市民による購入を進める(チャレンジド・フェアトレード)ほか、「つくたべ」や「食のブランド「千」」のプロモーションを通じて地産地消「バイローカル(Buy Local)」を進めます(ローカル・フェアトレード)。価値あるもの、受け継ぎ残したいものを見合った対価で購入して応援する取組を進めます。
- 男女共同参画、LGBTQ+、障害者、外国人住民などへの「配慮」が、社会として「当たり前」になる共生社会を目指します。
- 外国人住民の地域社会活動への参画支援の取組を進めます。
- 視覚障害や聴覚障害など様々な障害のある人が、情報にアクセスし、発信できるようにするための手話言語の普及や円滑なコミュニケーションのための条例を制定し、意思疎通を支援する環境の向上や市民理解を促進します。
- 未就学の段階から学齢期に亘り、保育所や小中学校で医療的ケアが安心して受けられるよう看護師の配置等の環境整備を行い、保護者の就労を維持し、子どもの育ちを支援します。
- 医療的ケア者、重症心身障害者を受け入れる生活介護事業者に対する市独自加算を行い、事業運営の安定化を図ります。
- 障害のある方の親亡き後の生活基盤となるグループホームを増設します。
- パラスポーツを市内各地で楽しめる環境づくりを行うほか、パラスポーツを支える人の育成を図ります。令和6年に開始したパラカップ千葉をより上位のアジア選手権であるアジアトライアスロンパラ選手権大会を開催します。
- 障害のある人もない人もともに安心して楽しめる公園を花島公園に整備します。
- 就労支援機関・団体と連携して障害のある人と企業をつなぐ機能を強化し、障害のある人の就労を促進します。
- 動物保護指導センターについて、有識者懇談会やボランティアの方々との意見交換をもとに策定した整備基本計画に基づき、再整備に向けた取組を進めます。

約束 6

地域の生活環境の改善と脱炭素社会の実現に向けて、
先行自治体としての役割を果たします。

都市の中に自然が息づく千葉市の財産をグリーンインフラとして保全するほか、経済の活性化と行財政改革につながる脱炭素社会の実現に向け、全国のモデルとなる取り組みを進め、さらに全国初の刑事罰を設けた金属スクラップヤード条例による指導実績と経験を踏まえて規制を更に強化し、火災を起こさせない安全な地域をつくります。

- 千葉県内で初めて指定を受けた「脱炭素先行地域」事業（動物公園での脱炭素事業など）を推進し、2030年の市域の温室効果ガス排出量を2013年度比で約36%削減、市役所における排出量を50%削減の達成を目指します。
- 国内最大規模の電力需給一元化システムを構築し、新清掃工場で発電した電力を託送することで、市有施設約750か所の電力消費に伴うCO₂排出実質ゼロを実現すると同時に電気料金を節減し、行政効率化につながる脱炭素化を進めます。
- 南部浄化センターに下水汚泥固形燃料化施設を整備し、浄化センターから排出される温室効果ガスを削減するほか、南部浄化センター及び中央浄化センターに太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギーの利用拡大を図ることで、下水道事業の温室効果ガス排出量を2013年度比で70%の削減（▲24千t-CO₂）を目指します。
- 脱炭素化への取組は今後配慮するものから真正面から取組むべきものとなり取引先の選定にも影響することから、市内企業の脱炭素の取組に関する情報提供を強化し、取組を促す支援を行います。
- 必要経費を抑制した上で、プラスチック分別収集を全市で実施し、再資源化するとともに、家庭ごみの3割を占める生ごみの再資源化のため、生ごみ減量処理機の処理物の回収・活用を推進します。
- 全国で初めて刑事罰を設けた金属スクラップヤード条例に基づく立入指導を強化するとともに、火災発生防止や延焼リスクの軽減のため、雑品スクラップの保管基準を新たに設ける規則改正を行います。
- 空き家の発生予防、管理不全や危険な空き家の解消、利活用を促進するため、市内の空き家の状況を把握するとともに、空き家等管理活用支援法人を指定して、相談対応、活用、管理の体制を強化します。
- 緑と水辺が担うグリーンインフラの役割など、自然環境が有する多様な機能をまちづくりに活かすため、「緑と水辺のまちづくりプラン2023」と「水環境・生物多様性保全計画」にもとづき、市街地の緑、谷津田や里山の保全を推進し、緑と水辺に関わる市民、事業者、団体のネットワークを広げます。



朝日ヶ丘公民館 ソーラパネル



緑ヶ丘公民館 蓄電池

約束 7

能登半島地震等の教訓を活かして、 災害に強いまちづくりを実現します。

令和元年の房総半島台風や能登半島地震の教訓を踏まえて、分散避難や電力・通信とトイレの確保等避難所の強じん化を進めるほか、避難に支援が必要な市民の個別避難計画、最新の被害想定を踏まえた避難計画を策定します。

- 能登半島地震における断水や避難が長期化した教訓を踏まえ、長期の避難所の運営の改善、介護を担う人の確保、トイレやシャワー等の水回りの機能確保を行います。
- 災害時における要配慮者支援に向けて個別避難計画の策定を進めます。
- 想定最大の高潮の被害想定を踏まえた避難計画を策定し、被害予想地域に周知します。
- 最新の情報に基づく地震被害想定を踏まえた対策強化及び見直しを行います。
- 避難所等に配備した備蓄品の管理のため、防災備蓄倉庫及び分散備蓄倉庫の増設と更新を行います。
- 県立高校や公民館などマンホールトイレが未整備な避難所でのマンホールトイレの整備のほか、自宅での携帯トイレの備蓄を促進するキャンペーンを実施します。
- 機能別団員制度など地域の消防団の充実強化を図るほか、ICT活用、頻回利用者対策等の適正利用を推進して救急体制の強化を図ります。
- 市消防防災ヘリの「おおとり2号」の更新を行い、平日日中から365日日中の出動待機体制を確立し、県内の消防航空体制を強化します。
- 避難所や防災拠点などに繋がる下水道管の耐震化を進めるとともに、近年の豪雨による水害から街を守るため、雨水管や千葉公園などの雨水貯留槽等の整備を進めます。なお、下水道料金については現在県内29市中で4番目に低い料金であり、今後、老朽化した管路の更新や耐震化などに費用を要し、工事資材単価や人件費の増高もあって平均15%程度の値上げが必要な状況です。抑制策を講じて負担増を出来るだけ抑えます。



九都県市合同防災訓練



市消防防災ヘリ「おおとり2号」

ウォーカブルとリノベーションのまちづくりを進め、
まちなかに賑わいを生み出します。

クルマ中心から、ひと中心のウォーカブルな街並みを目指すなど、地域でまちづくりに取り組む方々と連携し、今まちにある資源を磨き上げ、暮らしの楽しみを生み出します。

- 千葉駅周辺の再開発の進展や滞在型の催しの開催などの状況変化を踏まえ、ウォーカブルな街並みを目指して、景観規制の見直しや中央公園プロムナードの車線を減じて歩行者空間や緑の憩いの場を拡大する等、権利者や広くまちづくりに関わる方々と「中プロ・デザインラボ」で「ひと中心」の再編に向けて議論を重ね、「千葉駅周辺の活性化グランドデザイン」を改定し、中央公園プロムナードを通過する場所から交流が生まれる場所へと転換し、中心市街地の再生を目指します。
- 千葉公園通りのちこほこ(歩行者天国)、西千葉ゆりの木通りなど地域主体のウォーカブルなまちづくりを、官民の境をなくすなど公共空間の一体的な整備・改修を含め商店街等とともに進めます。
- 幕張新都心では、海浜幕張駅周辺のエリアにおいて、公共空間の利活用などを通じたまちの魅力と価値の向上のため、地域の企業団体によるエリアマネジメント団体の設立を支援します。幕張豊砂駅周辺では、地元企業・団体と連携し、引き続き社会実験や滞在環境整備を行うなど、ウォーカブルなまちづくりを進めます。
- 千葉駅、稲毛駅及び蘇我駅周辺の再開発計画や駅前広場の改善の中で、公共貢献に応じて整備費の一部を助成することで、駅前に相応しい賑わいの創出と公共空間を確保します。
- 千葉県警とさらに連携を強化し、客引きや路上喫煙、ポイ捨ての防止対策を強化します。
- まちの休眠資源・資産を蘇らせ、新たなひとのつながりを生み出す「リノベーションまちづくり」を、これまでの裏子バ・千葉駅西口での実例を踏まえて、新たに市内他地域で展開します。



市民参加イベント 魅力発見ウォーキング

約束 9

市民の文化芸術・スポーツ活動を応援し、
豊かな市民生活を実現します。

市民活動や文化芸術・スポーツ活動の拠点であり、リニューアルの時期を迎えている公民館、市民会館等について、計画的に修繕・建て替えを進め、まちづくりや賑わいの創出につながる再整備を進めます。

- 地域ニーズを踏まえ、資産の有効活用を図りながら、老朽化する公民館等の社会教育施設の修繕、建替えを計画的に進めます。
- 市民の文化芸術活動の発表の場、質の高い芸術公演が行われる場となるよう新・市民会館の整備を進めます。平時にはまちの賑わいを生み、災害時には帰宅困難者の一時保護を行える観点も踏まえて立地場所を選定します。
- 千葉国際芸術祭を定期開催するほか、芸術団体や民間、NPO等と協働して、市民の創作活動を支援し、市の文化の魅力や文化芸術政策の企画・発信を行うアーツカウンシルを創設します。
- 青葉の森の野球場等を県から市に移管し、改修も検討するなど市民利用がしやすい形にします。
- 効果的な広報・集客により250競輪の売上向上を図るほか、蘇我スポーツ公園や千葉公園において、スケートボードやBMXなどのアーバンスポーツの普及を進めます。

千葉ロッテマリーンズ、ジェフユナイテッド市原・千葉、アルティエリ千葉などプロスポーツのホームタウンチームを多く擁している特長を生かし、スポーツを地域資源と捉えたスタジアムやアリーナを拠点とした地域活性化を進めます。

- ZOZO マリンスタジアムの再整備計画について、マリーンズや民間事業者そして千葉県と協力しながら具現化し、365日楽しめ、賑わいを生み、ひとが行き交う幕張新都心の拠点とすべくまちづくりを進めます。
- 民間事業者が設置するアルティエリ千葉のホームアリーナは、市民利用ができる形での整備を支援し、まちのにぎわいを創出します。



2020マリンスタジアム
来季こそリーグ優勝を！

「ミッシングリンクを解消する幹線道路の整備」と「既存道路の質を向上させるリノベーション」による道路ネットワークの整備を進め、幹線道路と生活道路の渋滞緩和を図り、東京方面とのアクセスを円滑にします。

- 国道357号について、検見川真砂スマートインターチェンジと検見川立体の整備、蘇我地区の6車線化を進めることで、交通容量の拡大と東京方面へのアクセスを改善し、市内渋滞の緩和を目指します。
- 成田空港へのダブルアクセスや市内の幹線・生活道路の渋滞緩和、千葉港のポテンシャルの最大化に寄与する「新湾岸道路」の整備に向け、ルートやインターチェンジの位置、工法について、生活環境や景観に配慮したものとなるよう取り組みを進めます。
- 生実本納線(赤井町地区)、塩田町菅田町線、東寺山町山王町線など幹線道路のミッシングリンクの解消を進めます。
- 柏井小学校入口交差点や坂月町交差点等の改良、千葉大網線、千葉川上八街線などの歩道整備、南生実町86号線など生活道路の整備など、既存道路のリノベーションを進めます。

地域公共交通の維持により、日々の生活や事業活動に必要な交通手段を確保します。

- JR東日本と定期的に意見交換を行い、駅周辺のまちづくりやダイヤの在り方について千葉市の意見を伝え、市民生活や経済活動の実態に見合うダイヤ編成を維持するための取組を行います。
- 市内路線バス事業者と千葉市とで協議の場を立ち上げ、経営支援や人材確保支援を行うことにより、路線バスの複便に向けた取り組みを強化します。
- グリーンスローモビリティの導入支援やコミュニティバスの運行、シェアサイクルの拡大など地域の実情に応じたモビリティ手段を確保します、
- 市内鉄道駅のバリアフリー化と、ホームドアの設置に向けた支援を行い、安全な外出を後押しします。

市民の憩いとリフレッシュの場である都市公園・河川空間のリニューアルを、民間活力を活かしながら進めます。

- 市民と河川との良好なつながりを築き、地域活性化につなげていくため、都川、花見川、鹿島川などの河川空間とまちなかの公園を一体的に活用する社会実験などを行います。
- 公園のトイレの洋式化、内外装の改修等身近な公園の快適化を進めます。
- 千葉市の動物公園リスタート構想に基づき、湿原ゾーン、大池再整備に向けた取組を進めます。
- 千葉公園再整備マスタープランに基づき、浸水被害を軽減する施設整備をしながら、お花見広場などのやすいゾーン、荒木山やボートハウス等の水辺ゾーンの再整備を行います。また、千葉駅から千葉公園の導線上のウォークアブルなまちづくりを商店街等と推進します。
- 海浜幕張公園Bブロックは、海浜幕張駅蘇我側新改札口の設置と合わせ、民活導入による再整備を進め、「ひとも緑も健やかに」を具体化する広場、カフェ、明るく快適な緑陰を整備します。

約束 11

**雇用の場を創出し、
千葉市経済圏の好循環を力強く後押しします。**

スタートアップ支援による創業率の向上、市内企業のリスキング支援等により千葉市経済圏全体の生産性を向上し、賃上げと人手不足の解消を支援します。

- 物価高騰の影響を受ける市内企業の事業継続を支援するほか、賃上げを可能とする価格転嫁を促進して、人手不足の解消を後押しします。
- 市内企業の生産性を向上するため、資格取得など従業員育成や能力開発を促進する事業を強化するとともに中小企業のDX推進を支援します。
- 千葉市スタートアップ・エコシステムによる金融機関や大学等との連携を強化するとともに、上場支援を含む個別の成長支援プログラムなどスタートアップの各種支援を拡充し、地域全体の創業率の向上を図ります。
- 多様な主体の交流により新たな付加価値を生み出すための、イノベーション拠点の機能充実や外部人材の活用による新事業展開を支援します。

**雇用を生み出し、地域福祉と子育て施策の将来の財源となる税源涵養のため企業立地を進め、
地方卸売市場の再整備を進めます。**

- 最新の企業動向を踏まえて、市長によるトップセールスも行いながら、雇用や市内企業の取引を創出し、地域福祉や教育の税源涵養の効果が高い企業立地を引き続き推進します。
- 県内市内で不足する産業用地について、緑地保全に配慮しながらネクストコア千葉生実の造成分譲を進めるほか、10～20ヘクタールの中型規模の用地を官民連携方式で計画的に供給し、切れ目のない企業立地を実現します。
- 老朽化が進む千葉地方卸売市場について、今後の取引量を見込んだ上で、民間活力を導入した再整備を推進します。

**市内の宿泊客数を増加させるため、ビジネス見本市や国際会議、スポーツイベントの開催支援を行うほか、
外国人観光客向けの観光資源の磨き上げとプロモーションの充実を図ります。**

- コロナ禍以降回復が停滞している外国人宿泊客数を増加させ、国際的なビジネス見本市、スポーツイベント、会議等の市内開催を促進するための支援を強化します。
- 地域資源を活かした国内外向けの効果的な観光プロモーションで観光客を呼び込むとともに、市内で宿泊滞在し、楽しんでもらうナイトタイムエコノミーを充実させます。
- 観光振興の取組を着実に進めていくため、宿泊税などにより必要財源の確保を図り、観光資源の磨き上げや市内観光関連事業者への支援を実施します。

農業の収益性を高めることで、
農業の担い手を確保し、農地と地域を守ります。

農業を収益性の高い成長産業として、新規就農者の確保や農業後継者による営農の継続を支援し、農地が耕作放棄地となることを防いで、地域を守ります。

- 生産の基礎から経営的視点の育成まで一貫した研修を行い、新規就農者を確保します。
- 新規就農者や参入法人に加え、既存の小規模農家や農業後継者を対象に、農業機械・設備等への補助制度を改善し、幅広く農業に携わる方々への支援を充実します。
- 農政センターを、生産者、流通事業者、農業機械メーカー等が集い、技術や販路の相談拠点となるように機能の充実を図ります。
- 千葉開府900年に向け、食のブランド「千」の魅力を高め、取り扱い店舗や生産者の売上の増を図ります。
- 集中捕獲やわなの増設、狩猟免許取得の支援等、地域が主体となる有害鳥獣対策を強化し、中型獣の定着防止や市内への被害拡大を食い止めるための支援を行います。
- 地域農業の担い手の農地利用を促進するため、荒廃した農地を再生・活用する支援を充実します。



食のブランド「千」

約束 13

**老朽化する公共施設を計画的に修繕するほか、
市民サービスのデジタル化等により効率性を高め、市民に時間を返します。**

- (再掲)地域ニーズを踏まえ、資産の有効活用を図りながら、老朽化する公民館等の社会教育施設の修繕、建替えを計画的に進めます。
- 老朽化により更新時期を迎えている公共施設について、大規模改修等による保全修繕を計画的に行います。(総合保健医療センター、療育センター、千葉中央コミュニティセンター等)
- 真に対面での手続き対応が必要な市民に職員を充て、市民に時間を返すために、オンライン手続などを自宅で、また郵便局やコンビニなどの近場で扱える事務を拡充し、区役所等においても証明書を自動作成できる無人対応サービスを導入し、市民が区役所等の有人の窓口に来る必要のない取組「行かない窓口」を進めます
- 市への申請届け出の内容を窓口で確認し、原則署名するだけで手続きが完了する「書かない窓口」を導入し、来庁された市民の負担を軽減します。

約束 14

**歴史を振り返り、誇りと愛着を育みながら、
千葉市の将来を市民と切り拓きます。**

- 千葉開府900年記念事業を実施し、ひとづくり、文化づくりのプログラムを立ち上げ、レガシーとして受け継ぎます。特に、中高生を対象とした千葉開府900年記念・海外派遣プログラムを実施し、未来を切り開くアントレプレナーシップが身に付けられる機会を設けます。
- 郷土博物館を、千葉のまちの成り立ちを通史で学べる展示にリニューアルし、まちの歴史への市民理解を促進します。
- 縄文文化の研究とその成果を市民等に発信する拠点とするため、史跡のガイダンス機能を備えた新たな加曽利貝塚新博物館・史跡整備を進めます。
- 千葉市の歴史と今が分かるデジタル教材を作成し、未来のまちづくりを担う子どもたちの郷土教育に活用します。

約束 15

**「対話と現場主義」を徹底しながら、
行財政改革を不断に進め、職員の働き方改革を推進します。**

- 市長と語ろう会の全区での開催、ティーミーティングを継続して実施し、市民や地域が今向き合っている課題を共有し、市政に迅速に反映します。
- 公共施設や高齢者・子育て支援施設の立地場所としての市有地の有効活用を進め、利用しない市有地は売却を進めるなど資産の効率的な活用を進めます。



- 民間提案総合窓口・コネクテッドセンターちばを活用して、民間事業者の高い技術力により自動運転、ICTやAI活用による行政効率や市民サービスの向上など、スマートシティの実現を目指します。
- 地域社会の課題解決や人材育成のため、大学等との連携を強化します。
- テレワークを特別なものでなく通常の業務形態のひとつと位置付けるなど、業務内容や目的に応じて時間と場所を選択できる勤務形態、通年の軽装促進、AI導入などの業務効率化を、市役所職場の働き方改革として定着させます。
- 市職員の育児・介護等と仕事の両立を支援するため勤務パターンの拡充や介護休暇等の日数拡充を行うほか、管理職候補となる主査級に占める女性職員比率を40%に、2週間以上育児休業を取得する男性職員の割合を85%とする「千葉市職員・女性活躍・子育て応援プラン」を策定し、その実現を目指します。

千葉市の財政と行政改革の推進

新規事業の実施には、財源の捻出が必要ですが、物価高騰や光熱水費の値上がりの影響による歳出の増に、市税収入の増加が追いついていない状況であるほか、デジタル化経費の増高や扶助費の増加、政令指定都市移行時に設置された公共施設の建て替え更新なども控えており、大変厳しい財政状況となっています。このため不断の行財政改革をこれまで以上に進め、データに基づく政策立案やメリハリをつけた事業実施を行うことが必要となります。財政状況や料金の改定についての丁寧な説明をまいります。

2021年より全力を尽くした4年間



2025 新たなチャレンジへ

千葉市長 神谷 しゅんいち

900年の歴史を受け継ぎ
市民・地域とともに築く・千葉市の未来



進化していくマニフェストです。
是非あなたのご意見をお寄せください。



神谷しゅんいち公式HP
ご意見問合せページ

葛野会(神谷しゅんいち後援会)事務局

〒260-0013千葉市中央区中央3-3-9 MF9ビル302号室 TEL:043-441-3233 FAX:043-441-3234

HP: <https://www.kamiya-shunichi.jp/> Email: chibacity@kamiya-shunichi.jp